



開物成務

令和5年5月17日(水)発行

校長 津田 千由美

リアルな体験と学び

5月8日以降、コロナが第5類に移行しました。これを機に、これまであまりできなかった校外での学習や異学年交流が随時再開し、学校生活がさらに活気づいてきました。

常時換気や手洗いなどの感染対策は今後も引き続き継続しますが、子どもの成長にとってよりよい教育活動を模索していきます。

学校探検

5月2日(火)、1年生が生活科の学習で学校探検を行いました。学校探検の案内役は2年生の子どもたちです。2年生はこの日のために、保健室や校長室、その他の特別教室を取材し、1年生にもわかるように説明をする事前学習を行っていました。

いよいよ本番、1年生と2年生がそれぞれチームを組み、互いの自己紹介から活動が始まりました。

「ここは、校長室です。上に飾ってある写真は、これまでの校長先生たちです。津田校長先生は、37人めです」

事前学習がしっかりと生かされていました。

来年の今頃、1年生はきっと、このすてきな2年生の姿を引き継いでくれることでしょう。

役場見学

5月12日(金)、3年生が社会科の学習で開成町役場を見学しました。

「役場はどんな仕事をするところかな」

「何人くらいの人が働いているのかな」

など、いろいろな疑問をもって出かけました。案内役の教育委員会の方が丁寧に説明をくださったおかげで、疑問が解決しました。役場の建物には、環境に優しい工夫が至るところに施されていることも知りました。

また、普段は入ることのできない議場にも入ることができました。開成町議会の議長さんが子どもたちを出迎えてくださり、



議会のしくみや採決の仕方を教えてくださいました。

「開成町のすてき」に触れることのできたひとときでした。

クラブ活動

5月8日(月)、今年度初めてのクラブ活動が行われました。子どもたちの希望調査により、今年度は陸上、サッカー、バドミントン、イラストなど11のクラブ活動が編成されました。

4年生にとっては初めてのクラブ活動です。最初のクラブ活動は、年間計画を立てる話し合い活動が主な内容でしたが、クラブで使う道具を早くも持参して登校した児童も多く、子どもたちのやる気が伺えました。興味のあるもの、好きなものを自分で選べるということが、クラブ活動の醍醐味なのでしょう。

クラブ活動を通して、異学年集団の中で協力すること、自分たちで考えて行動することを学んでいます。

代かき体験

5月10日(水)、5年生が総合的な学習の時間に、代かきを体験しました。例年、前教育長の鳥海先生宅の田んぼをお借りしています。

前日には、米ができるまでの1年間の歩みや、代かき・田植えの仕方などを鳥海先生から教えていただきました。



当日はやや肌寒かったものの、前日までの大雨もやみ、よい天気になりました。水を張ったばかりの田んぼの中を走り回る子、身体全体でダイビングする子、泥団子合戦を始める子、子どもたちの姿は様々です。

「稲の根がしっかり張るように、できるだけ土を柔らかくすることが必要です」という鳥海先生の言葉に背中を押されたのか、最初は恐る恐る田んぼに入っていた子どもたちも、最後は泥まみれになっていました。

今週 18 日には田植えを行います。農家の
方々は日に何度も水の調整をしたり、除草作業
をしたり、中干しをしたりと、秋の稲刈りまで
にたくさんの作業を行います。

5 年生は、米作りの
リアルな体験をとおして、
食料生産に携わる方々の
思いにもふれていきます。



読み聞かせ

「本読みママさん」による読み聞かせが、始
まりました。初日は6年生へ
「おおきくなりすぎたくま」
という絵本を読んでいただき
ました。



どの学級でも静かに耳を傾け、
最後には自然と拍手が起こっていました。

地域の皆様にもお力をお借りしながら、子ど
もたちに聞く力や読解力を育てていきます。

修学旅行

5月13日(土)・14日(日)、1泊2日の日光修学旅行が実施されました。開成町は朝からあいにくの雨でしたが、栃木県に近づくにつれ、時おり晴れ間がのぞき、1日めはほぼ予定どおりのコースをたどることができました。6年生が作った何十個もの“てるてる坊主たち”が、願いを叶えてくれたのでしょう。

みんなの気持ちを高める実行委員さんたちの力強い言葉、
互いに声をかけあい自分達でよりよい行動を考える姿など、
2日間の旅行中、6年生のすてきな行動がたくさん見られました。

同行された添乗員さんからも
「挨拶と返事が素晴らしく、よくまとまっている6年生ですね」
とお褒めの言葉をいただきました。

最後は、
「この経験をこれからの学校生活にも生かしていきます」
という実行委員の決意表明で締め括りました。最高学年としてのさらなる活躍を期待しています。

保護者の皆様には、早朝からのお弁当づくりや送迎等にご協力をいただきまして、ありがとうございました。おかげさまで素晴らしい思い出をつくることができました。



「手をかけ、目をかけ、心をかける」という言葉があります。自立への道を端的に表している言葉です。「自立」とは、他の力にたよらないで「自分のことは自分でする」ということです。

4月の初めころは校門まで保護者と一緒に登校してきた子どもたちが大勢いました。4月下旬になると、学校の少し手前で別れ、その距離が少しずつ遠くなっていきました。ゴールデンウィークがあけると、自力で登校する1年生の姿が多く見られるようになりました。下校についても同じです。「先生と一緒に(手をかける)」から「近くの友達と一緒に(目をかける)」に移行していきました。

このように子どももの成長とともに、大人が子どもと関わる距離感が変わっていきます。

目指すは子どももの自立。登下校以外にも「自立」が必要な場面は多々あります。ですが、大人の思惑通りに「自立」が進まないことも多々ありますね。そんなときには、「もうしばらく手をかけてみよう」、「少し手を抜いて、目をかけるだけにしよう」というように、子どももの状況に合わせて「手をかけ、目をかけ」を使い分けるとよいと思います。いずれにしても最も大切なことは「心をかける」こと。

どう関わるかが正解なのか、マニュアルがあるわけではありません。その答えは試行錯誤の末に辿り着くものです。「あなたのことを大切に思っているよ」メッセージは、常に子どもに届けたいものです。大丈夫、一緒に長い目で見守っていきましょう。



わたしのひとりごと…